

■ 終末期医療のあり方を考える講演会が開催される

社会福祉法人芦別慈恵園主催の「まちづくり講演会」が10月23日、総合福祉センターで開催され、『「平穩死」のすすめ』の著者で特別養護老人ホーム芦花ホーム（東京都世田谷区）常勤医師の石飛幸三さん＝写真＝が、「こうして死ねたら悔いはない～平穩死のすすめ」と題して終末期医療について講演しました。

講演会には約300人が参加。石飛さんは、人生の終末期に点滴や胃ろうで栄養

を送り延命処置をすることは、その人を変えて苦しめることになるのではないかと問題提起。

「肉親が一日でも長く生きてほしいという気持ちは尊重しますが、老衰という自然の摂理を認識し、単なる延命治療が意味をなさないのであれば、それをしなくても責任を問われるべきではない」などと語り、会場に集まった皆さんは真剣に耳を傾けていました。



■ ほくでんファミリーコンサートが開かれ、オーケストラの演奏楽しむ



北海道電力株式会社主催の「ほくでんファミリーコンサート」が10月25日、星槎高校体育館で開催されました。

佐藤俊太郎さん指揮、札幌交響楽団の演奏で、モーツァルト作曲の歌劇「フィガロの結婚」序曲でオープニング。続いて、ベートー

ベン作曲「交響曲第8番」、ドボルザーク作曲「交響曲第8番」が演奏されました。

当日は、雪が降る天候の中にもかかわらず、約200人が会場に詰めかけ、オーケストラが奏でるダイナミックで優美なクラシック音楽をたん能していました。

■ 小説を一段と味わい深く 「朗読の集い」が開催される

11月8日、声のボランティアかりんとう主催、芦別市社会福祉協議会などの後援による「朗読の集い」が市立図書館で開催され、元NHKアナウンサー・山田誠浩さん＝写真＝が朗読を行いました。

はじめに「かりんとう」メンバーが『シルバー川柳』（ポプラ社刊）

を読み会場を和ませた後、山田さんが太宰治作の「グッド・バイ」と浅田次郎作の「雛の花」を朗読。

山田さんの登場人物の個性に合わせた絶妙な声色に思わず感嘆の声が漏れるなど、集まった約60人の市民の皆さんらは朗読の魅力に引き込まれていました。



■ 国設スキー場とカナディアンワールド公園 検討委員会が提言書



国設芦別スキー場とカナディアンワールド公園の今後のあり方等について、それぞれの市民検討委員会が提言書をまとめ、11月9日、今野市長に提出しました。

国設芦別スキー場市民検討委員会は、竹原司さんを委員長とする10人が議論を重ね、「冬の文化として広く市民の方々の健康増進等を促す社会体育

施設として存続すべき」などとの結論をまとめました。

また、カナディアンワールド公園市民検討委員会は、松井元さんを委員長とする15人が議論。「市の貴重な財産として、広く市内外の方々にも知ってもらい、楽しんでもらえる施設として存続を」との提言をまとめ、報告しました＝写真＝。